

小学六年

適性検査A

解答と解説

問一
意
思
疎
通
の
た
め
の
引
き
出
し

12

問二 【例】			
足	し	て	目
が	た	い	の
な	り	る	前
く	必	か	に
伝	要	想	い
わ	な	定	る
り	情	し	相
や	報	、	手
す	を	余	が
い	つ	計	ど
表	け	な	れ
現	加	部	く
を	え	分	ら
使	た	を	い
う	り	ぎ	の
こ	し	つ	知
と	て	く	識
。	、	り	を
	過	落	持
	不	と	っ

80 60 40 20

【例】						
め	足	相	べ	な	き	
な	を	手	き	の	こ	相
い	調	の	だ	か	と	手
こ	節	持	と	を	に	の
と	し	っ	説	想	つ	こ
が	な	て	明	定	い	と
大	が	い	さ	し	て	を
切	ら	る	れ	て	、	考
だ	、	知	て	ふ	文	え
と	す	識	い	さ	章	て
述	ぐ	を	る	わ	A	話
べ	に	想	。	し	で	す
ら	や	定	ま	い	は	う
れ	り	し	た	言	誰	え
て	取	、	、	葉	に	で
い	り	情	文	づ	向	大
る	を	報	章	か	け	切
。	あ	の	B	い	た	に
	き	過	で	を	言	す
	ら	不	は	す	葉	べ

100 20

問三

の	ら	か	て	ち	こ	る		が	応	こ	は	に	た	
過	れ	っ	い	が	と	。	会	ら	を	と	文	な	い	ど
不	る	て	る	残	を	簡	話	話	見	が	章	る	こ	ち
足	。	い	内	っ	や	単	を	す	っ	き	B	べ	と	ら
を	だ	る	容	て	め	に	す	よ	っ	ち	の	き	ば	に
調	か	と	で	し	る	伝	る	う	、	ん	筆	だ	か	も
節	ら	は	あ	ま	と	わ	際	心	情	と	者	と	り	共
し	、	限	っ	う	、	ら	、	が	報	伝	の	い	考	通
て	相	ら	て	。	お	ず	一	け	の	え	意	う	え	し
話	手	な	も	自	た	め	度	た	過	ら	見	こ	ず	て
せ	の	い	、	分	が	ん	で	い	不	れ	に	と	に	い
る	反	た	相	に	い	ど	伝	。	足	る	同	だ	、	る
よ	応	め	手	と	も	う	わ		を	よ	意	。	受	の
う	を	に	も	っ	や	に	ら		う	う	す	そ	け	は
に	見	起	同	て	も	感	な		ま	に	る	の	取	、
な	な	こ	じ	よ	や	じ	い		く	、	。	う	る	自
り	が	る	く	く	し	て	こ		調	相	言	え	相	分
た	ら	と	ら	わ	た	伝	と		節	手	い	で	手	が
い	情	考	い	か	気	え	が		し	の	た	、	の	語
。	報	え	わ	っ	持	る	あ		な	反	い	私	身	り

440

400

300

200

(配点)

{ 問一 10点  
 問二 30点  
 問三 60点 } 計100点

【解説】

問一 B1 情報を獲得する 具体化 関係つけ

【文章A】では、読む相手のことを考えているとは思えない文章の例をいくつか挙げたうえで、傍線部で「読者を想定し、ふさわしい言葉づかいをしている」文章は珍しいと指摘しています。相手のことを考えずに書いたと思われる文章が多いため、自分の考えていることや読み取ってほしいことがきちんと相手に伝わらないという事態を筆者は嘆いているのです。これに対し【文章B】では、日本語教師の仕事をしている筆者が、主に外国人とのふだんのやり取りの中で、「やさしい日本語」をはじめとしてさまざまな方法でコミュニケーションが円滑に進むような技術を取り入れていることが紹介されています。そのことを、【文章B】の筆者自身は2ページ下段で「意思疎通のための引き出し（が多い）」と表現しています。

問二 B2 具体化 関係つけ 置き換え

まずは【文章B】の中で、日本語教師として外国人学生と会話をしている部分を探しましょう。3ページ上段に『日本人の知らない日本語』という書籍から、病気になった外国人学生との間で日通訳をしている場面の引用があり、このような場面の会話での対応方法について、「我々は余計な部分をざっくり落とすこともあるが、必要な情報を加えることもある」と説明されています。さらに周辺を読みこむと、「頭の中の知識を想定することや、「過不足」について意識することも必要である」とわかります。筆者はこれらのことを意識し、「伝わらない表現」にならないよう心がけているのです。

※七十字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。  
内容等について（18点）

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

・日本語教師として外国人の学生と話す際、筆者が具体的にどのようなことを心がけているかが書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

形式等について（12点）

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ

目の誤りは6点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

・誤字や脱字がないか

・文法的な誤りがないか

・語句や言葉の使い方に誤りがないか

・常体、敬体の混在がないか

・不適切な話し言葉の使用がないか

・消し残りなどで字が見えづらくないか

・指定されたマス目の使い方ですべて書かれているか

・一マスに一文が書かれているか

問三

C2 理由 置き換え 推論

**文章A**と**文章B**に書かれたことを確認して、相手のことを考えて話すうえで心がけたいこと、という課題についてあなたの考えを述べる問題です。

第一段落では、**文章A**と**文章B**それぞれに書かれた、相手のことを考えて話すうえで大切にすべきことについてまとめます。

**文章A**では、相手のことを考えずに書いたと思われるよくない文章の例が挙げられています。これらに対して否定的な立場を示していることから、筆者は「相手のことを考えて言葉づかいを選び、文章を書くこと」が「必要なこと」であると考えていることがわかります。また、**文章B**の筆者は、日本語教師として相手に伝わる表現をするうえで、「やさしい日本語」をはじめとしたいいくつかの手段を紹介しています。前半では相手に日本語の知識がやや乏しい例が挙げられており、ここでは一度であきらめず何度かチャレンジして意思疎通を試みる様子が示されています。また、文章の後半では相手の日本語運用能力が高い場合も挙げ、臨機応変に話し方を選ぶ必要性についても述べられています。

第二段落では、**文章A**と**文章B**のいずれかの筆者の考えをふまえて、あなたの考えを書きます。たとえば、「書く言葉」に焦点を当てて、読む相手のことを考えて伝えるべきだという**文章A**の筆者の意見に同意できるところがあれば、実際に自分が「書く言葉」を使用する場面、具体的にはメールやSNSでの発信に関して意見を述べることができます。また、相手の立場や日本語の技能について考えつつ、一度であきらめずに複数回チャレンジするという**文章B**の筆者の意見に同意できるところ

があれば、簡単にあきらめてしまった場合のデメリットという観点で自分の意見をまとめることができます。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。自分の意見を述べる作文では、意見だけを書くのではなく必ず理由を合わせて示すよう心がけましょう。そのような意見を持つようになったきっかけや根拠は何か、と明らかにすることがより説得力のある文章を書くことができるようになります。

※四千字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について（48点）

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

第一段落について

- ・ **文章A**と**文章B**それぞれに書かれた、相手のことを考えて話すうえで大切にすべきことについて書かれているか
- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係、一文が途中で終わっていないか
- ・ 同内容の不必要な反復がないか

第二段落について

- ・ 第一段落でまとめた**文章A**と**文章B**のいずれかの筆者の考えをふまえて、相手のことを考えて話すうえで心がけたいことについて自分の考えが書かれているか
- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係、一文が途中で終わっていないか

・ 同内容の不必要な反復がないか  
第三段落について

・ 第二段落に書いたことについての理由が書かれているか

・ 内容が過不足なく書かれているか

・ 文の論理構成、主語や述語の関係、一文が途中で終わっていないか

・ 同内容の不必要な反復がないか

形式等について(12点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは6点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をします。

・ 誤字や脱字がないか

・ 文法的な誤りがないか

・ 語句や言葉の使い方、誤りがないか

・ 常体、敬体の混在がないか

・ 不適切な話し言葉の使用がないか

・ 消し残りなどで字が見えづらくないか

・ 原稿用紙の使い方、誤りがないか

・ 指定された段落数で書かれているか